令和3年10月21日（木）東奥日報（26面）

認知症調査 5年目に

弘大と弘前市 今年は540人

弘前大学と弘前市は19～23日、同市の河西体育センターで、高齢者の認知症やそれに関係する健康状態を10年間にわたって追跡調査する「いきいき健診」を行っている。弘大のほか九州大学などが全国8カ所で計1万人を調査しており、今年で5年目。同市では69歳以上の市民約540人が参加する。（福士和久）

脳チェックのブース。タブレットに示されたカードを記憶する検査などを行っている＝20日

今年は新型コロナウイルスの影響で2度延期となったが、ワクチンを2回接種済みの市民に限定し、2週間前から検温結果をチェックしてもらうなど感染防止に努めている。

今年の参加者は2017、19年と隔年で検査を受けた人たちで今回が3回目。1時間半ほどかけて15ブースを回り、記憶力や血圧、体力、運動機能などを調べた。健診を終えた同市外崎の工藤静子さん(76)は「内科的な状態や持久力、体力も知りたいと思い毎回参加している。脳チェックで『A』判定が出てうれしい」と話していた。

いきいき健診は16年に始まった。弘大大学院医学研究科の中路重之特任教授は「健診がすっかり定着してきた。楽しみに来ている方も多く、今年も実施できてうれしい」と語った。

弘大は、いきいき健診とともに延期となった同市岩木地区の高齢者を対象とした岩木健康増進プロジェクト（岩木健診）を11月に開催する予定。